

株式会社タク技研

■平成25年度テーマ

メタルマスク製造専用ソフトの開発と設計
支援サービスの提供

■平成25年度概要

メタルマスク製造に必要な専用ソフトを開発し、そのソフトを得意先は無償提供することでメタルマスクの設計工数を20%程度削減し、かつ製造指示内容の誤りをなくし、得意先とのデータの機密性を高める。

■事業の概要と成果

メタルマスク設計工数を20%程度削減すること为目标にメタルマスク製造に必要なソフトを開発した。検証に検証を重ね、作業者の時間短縮に加え、製造指示内容の誤り自体も飛躍的に減らすことができるソフトを開発することができた。

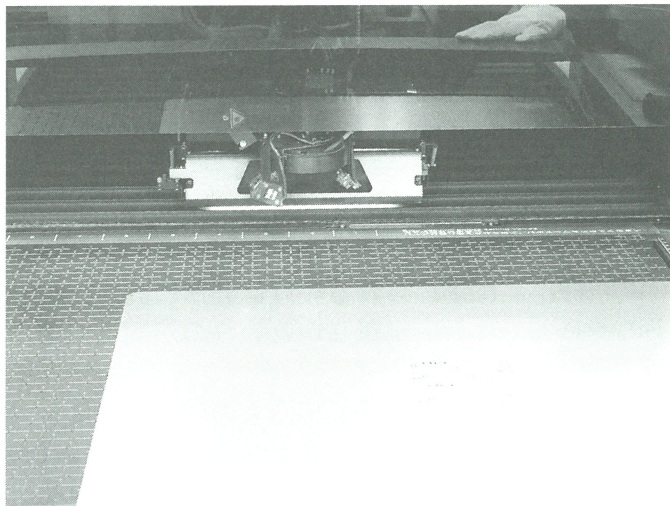
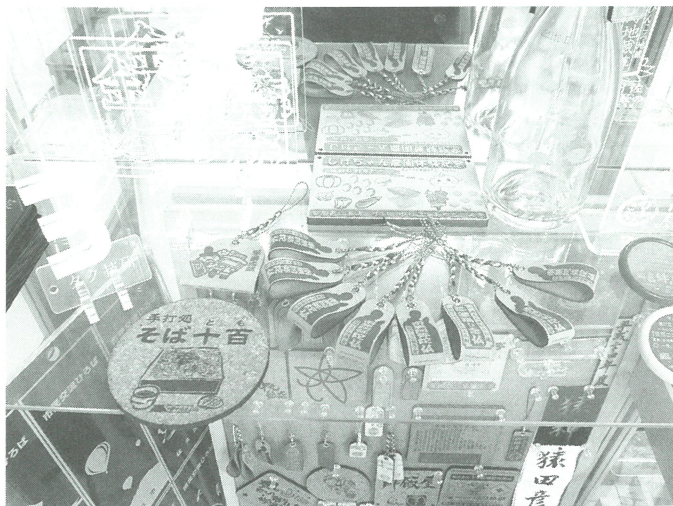
■平成25年度分類

＜対象類型＞ 【ものづくり技術】

情報処理

＜事業類型＞ 一般型

設備投資のみ



好機逸すべからず

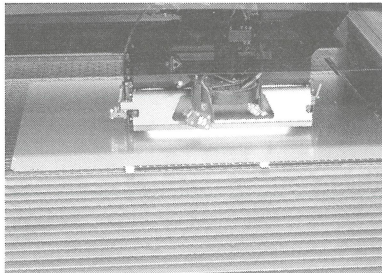
「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社タク技研（佐久市）

「お客様の笑顔が見えるものづくり」を徹底追求し、
高品質なメタルマスクを一貫生産。

メタルマスクで 全国500社以上のお客様と取引

あらゆる製品に使われている電子基板には、数多くの電子部品が高密度に実装されています。その製造工程は高密度化にともなって飛躍的に



レーザー加工によるメタルマスク製造

進化。現在はクリームはんだをメタルマスクという印刷板を使って基板に印刷し、そこにマウンターで電子部品を載せ、高温炉に通すことではんだ付けをする方法が一般的です。

メタルマスクの設計・製造・品質保証・出荷までの一貫生産で高く評価されるタク技研。全国500社以上の企業と取引し高く評価される理由を、茂原睦男社長は次のように話します。

「ただお客様の要望を聞くだけでなく、設計の段階でお客様へ積極的にアドバイスをしております。弊社の気付きやきめ細かな対応が評価され、他社との差別化が図れています」

同社は電子部品に印字するゴム印の製造でスタート。ところが今から15年ほど前、部品に直接印字するレーザーマーキングが増加し、受注量が大きく落ち込みます。そんな時に顧客から相談を受けたのがメタルマスクの製作でした。

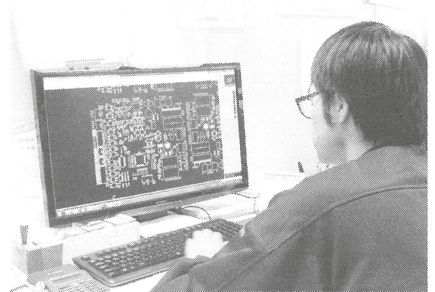
試行錯誤を重ねながら製品化に成功、それが同社の方向を決めます。創業以来の「不良ゼロへの挑戦」を合言葉に、業界トップの開口全数検査装置をいち早く導入するなど、不良を出さない品質管理体制を構築。それが評判を呼び、今や同社の8割を占める事業に成長しています。

「一品一様」の製品づくりも

「なんとかお客様に喜んでいただこうと、できないとは決して言わずにやってきました。その姿勢を今後も崩さず、『お客様の笑顔が見えるものづくり』を進めていきたい」

茂原社長が強調するのは、お客様の笑顔が見えるものづくり。ものづくり補助金を活用し、元々

客先では読めなかった基板設計の特殊データを読み取るソフトを開発し無償提供したのもその一環です。開発



顧客用の読み取りソフトで
データの海外流出防止も

を担当したのは、メタルマスクの加工用データを作成（編集）するCAD課の柳沢大輔課長。「お客様にとっていかに使いやすくできるか、それが苦労したところです。お客様と打合せをし、作り替えを重ねながら作り込んでいきました。（データを見ることで）より細かな指示を出せ、良いものが作れるようになったと喜んでいただき、作ってよかったと思いました」。更に、もうひとつの目的であるデータの海外流出を防ぐ仕組みをつくったことでも喜ばれています。



レーザー加工技術を活かした
「時を刻む彫刻品」

海外から撤退してくる製造業が増加している中で業績も上向き。更に同社では得意のレーザー加工技術を活かし、木・合成皮・コルク・アクリルなどの素材にデザインを施した「一品一様」の製品づくり「時を刻む彫刻品」も手掛けています。



株式会社タク技研

代表者 代表取締役 茂原睦男
創業 1984（昭和59）年6月
資本金 1,000万円 従業員数 47人
本社 佐久市跡部453



TEL0267-62-8898 FAX0267-63-8519
事業内容 メタルマスク、SMT関連治具などの設計・製造、「時を刻む彫刻品」の企画・製作